

撞木が新しくなりました

今迄使用していた撞木は、別院の梵鐘を打つには細いものでした。坂本棟梁は、せっかく綺麗になるのだからと、梵鐘に似合う大きさの撞木を探して下さいました。

新しい撞木は、岩手県大船渡の木村勝夫さんが旭川別院に寄贈して下さいました。気仙大工である木村さんが棟梁と同じ思いをもって、旭川別院に携わって頂いたことを感じ、感謝の念つきません。

この旭川別院の改修工事に、工事関係者並びにご門徒の皆様、そして職員一同が一丸となって、そして修復の完成を待ちたいものです。



ご門徒全員が一丸となって本堂等改修を目指していきたくて考えておりますので、いまだ記帳書の提出が滞っております方々には是非ともお願い申し上げます。

2012年8月1日作成

調査員：草部・長尾・高橋



別院しらべ隊

調査報告書No.24 新しい足跡をつけていく

江戸末期～明治初期③

明治3年(1870年)2月10日

早朝、現如上人は両堂参詣をし、多数随員(僧俗併せて百数十名)を従えて本山表玄関を出発された。本山に集まった道俗男女数知れず、一同涙ながらにお見送りをした。

一行は、勅書櫃と現如上人の輿を中央にして、その前後に本山重役衆・役僧衆、小卒・従僧等を随えて、威風堂々列伍を整え、東海道を進んだ。

大津御坊を経て草津伝久寺にて一泊、翌日は愛知川宝満寺泊、その翌日は長浜御坊と進まれた。

3月1日

名古屋御坊に到着。

本山を出発してからの期間、126の寺院、31の門徒宅にて法縁を結び、帰敬式も行われていた。宿泊所・立寄る場所は到る処未曾有の群参であった。

その後、木曾街道を経て信州に入り【善光寺】に御参詣、その後、越後国国府・居多ヶ浜・小丸山等親鸞聖人の御旧跡巡拝し、【八房梅・三度栗・逆竹等の七不思議】も順覧された。出羽国米沢では上杉藩知事が一行を優待し、出羽国酒田では末寺浄福寺門徒である富豪本間主膳が開拓費小判金五百両を献納した。

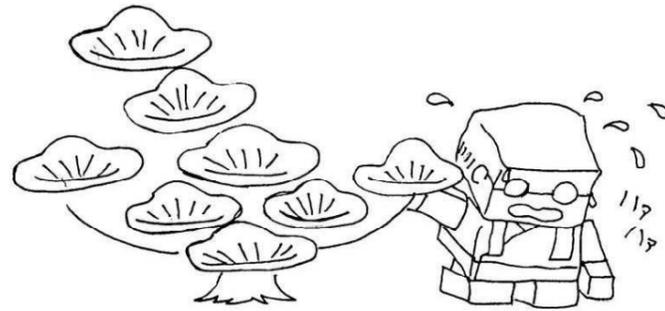
※勅書櫃・・・天皇の大命を布告する公文書を収めた箱。勅書櫃を御輿に載せ

勅書櫃守護役が随従していたほど重要な勅書(勅命)であった。

善光寺

善光寺は、創設以来約1400年になります。親鸞聖人は越後から関東へ向かう途中に善光寺へ百日間滞在していました。滞在中、松の枝を奉納した事から松の小枝を持った親鸞聖人像が奉られています。

また、親鸞聖人が爪で彫ったという石仏の「爪彫阿弥陀如来像」があり、古くから「眼病に効く如来さま」と伝えられ、多くの方々の信仰を集めています。



越後の七不思議

越後で布教活動を行っていた親鸞聖人にまつわる出来事が、「越後七不思議」として伝えられている。

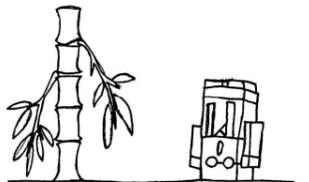
1, 三度栗 【保田(安田)】 …親鸞聖人が植えた焼き栗が一年に三度も実がなる木になった。



2, つなぎ榎【田上】 …糸で繋いだ榎の実を植えたら糸を通した跡がある榎の実がなった。



3, 焼き鮎 【山田(黒埼)】 …食事に出された焼き鮎を池に放つと元気に泳いだ。以来付近の鮎には焦げた跡が残っている。

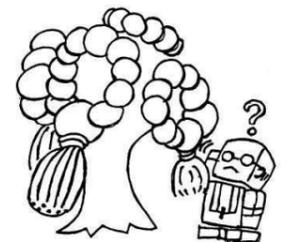


4, 片葉の葦【国府(上越)】 …「わが念願を守りて、その奇瑞を表したまえ」と祈願こめたところ、境内に生えていた葦が一夜のうちに片葉になった。

5, 逆さ竹 【鳥屋野(新潟)】 …親鸞聖人が土に刺した竹の杖から枝や葉が下に向かって伸びた。



6, 八房の梅【小島(京ヶ瀬)】 …親鸞聖人が食べた梅干しの種を植えたら1つの花から8つの実がなった。



7, 数珠掛桜【小島】 …手にされていた数珠を路傍の桜の枝に掛けたところ、花が数珠のようにつなげて咲くようになった。